



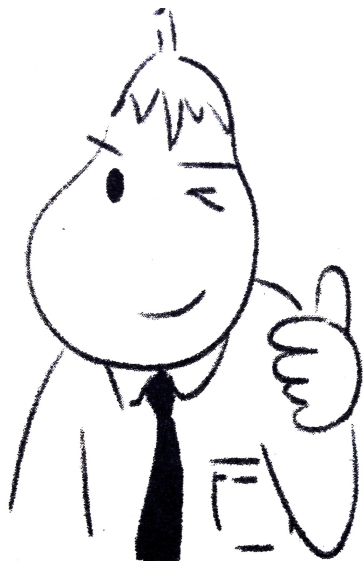
数が少ない数であるほど、音は調和するのです。弦の長さが、1と3/4の時なら(4:3)、ドの音が3回振れ、ファの音が4回振れて交わる関係となります。

理科で音さを用いての実験をしましたね。同じ波長(振動数、周波数)のもの同士は片方が鳴ると、別の一方も響き始める、共鳴というのを覚えていますか。共鳴はもちろん同じ周波数(同じ高さの音)同士が一番響きあうわけですが、次は倍音(オクターブ)の関係(2:1)にある音が響きあいやすく、さらに次はドとソの関係(3:2)にある音が響きやすいわけです。

まあ、難しいことはさておき、新たな疑問として、バイオレ君は、「いっそのことソにあたる音(完全五度)を2/3びつたりにすればいいのに、なぜ0.667419927という地点にあるのか」と思いました。

昔はそのような音階での音楽も存在したらしいのですが、現代では十二平均律といって、厳密な比率のもとに音階をとっているのです。ピアノの調律などももちろんそうです。なぜなら、ファを3/4、ソを2/3にびつたりと合わせてしまったら、その調では快く聞こえたとしても、別の調ではへんてこな事になってしまうからです。

オーケストラや合唱などを経験して音楽に詳しい人ならこんな話を聞いたことがあるのではないのでしょうか。ド・ミ・ソの和音を奏する時、若干真ん中のミの音を低くとったほうがいいと。これは、ドの音

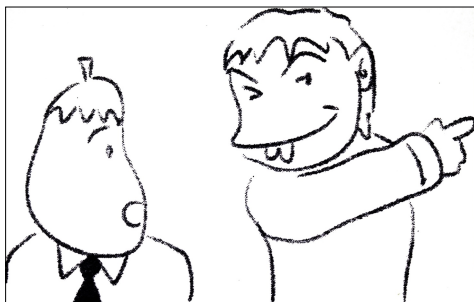


に対してソの音が(0.667419927)と、2/3に限りなく近いのに対し、ミの音は4/5には近いものの、(0.793700526)であって、少しの開きがあるため、4/5に近づけるうえで、さげたほう(低くとる)が、調和しよく響くハーモニーを作り出すからです。ギターやピアノといった楽器は演奏中に音程を高低させることはできませんが、管楽器やフレットの無い弦楽器(バイオリンなど)や人の声は、そのつど音程を変化させることが可能なので、より深みのある和音を構成することができるのです。

何かすっきりしたバイオレ君、本題に戻してギターの製作を再開しました。

【思わぬ展開?よくある結末】《国語》

ふつてわいた災難……? 友達のマアちゃんが、「ビリヤードしにいこーぜ!」とバイオレ君を誘いに来たのでした。ビリヤード好きのバイオレ君、断ることなどあるはずありません。ととと、マアちゃんと夕暮れ迫る町へと飛び出して行きました。



しばらくして、バイオレ君のママが夕飯だよと、バイオレ君の部屋へ呼びに来た時、もぬけのからとなった部屋に散乱する木くず・がらくた……。

あとは、ご想像のとおりです。バイオレママの怒りの波長は、どうやらバイオレ君には共鳴しなかったようです。暗い夜道を意気揚揚と帰宅への道をたどる彼に、後に一撃の震動が加えられたのは言うまでもありません。

END

